

調査・資料を「リスニング」する現代美術家 mamoru と日本で最も長い歴史を持つ芸術大学、京都市立芸術大学の共演によるジャム・セッション



"Beechcraft Model 18, 1941" by Joseph Gabriel, paper, sheet sticker, wood, 41.5×30.5×6 cm
(mamoru《THE WAY I HEAR/LAKWATSA, Manila 2013》より)

京都市立芸術大学芸術大学芸術資料館収蔵品活用展「第十門第四類」

— mamoru「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」 phase 0 —

2021年12月11日（土）～2021年12月26日（日）

mamoru「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」

2022年1月4日（火）～3月21日（月・祝）

2023年のキャンパス移転に向け、京都市立芸術大学（京都芸大）では、本学独自の「知と創造のありか」を探求しています。京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでは、移転後の大学活動を踏まえ、2017年から、アーティストや研究者と協働し、本学芸術資料館が所蔵する多様な芸術資料を新たな視点で調査・研究・活用し実験的な展示へと発展させてきました。2021年度は、「リスニング」の手法で想像を喚起する言葉やイメージ、そして歴史の中に埋もれてしまった小さな出来事を探るアーティストのmamoruと協働し、〔アーカイヴ〕の声を聴き、考察することを試みます。



鈴木松年《唐子遊亀図》
(京都府画学校絵本（東京）)
制作年：明治時代（1881-88頃）
和紙、墨、顔料

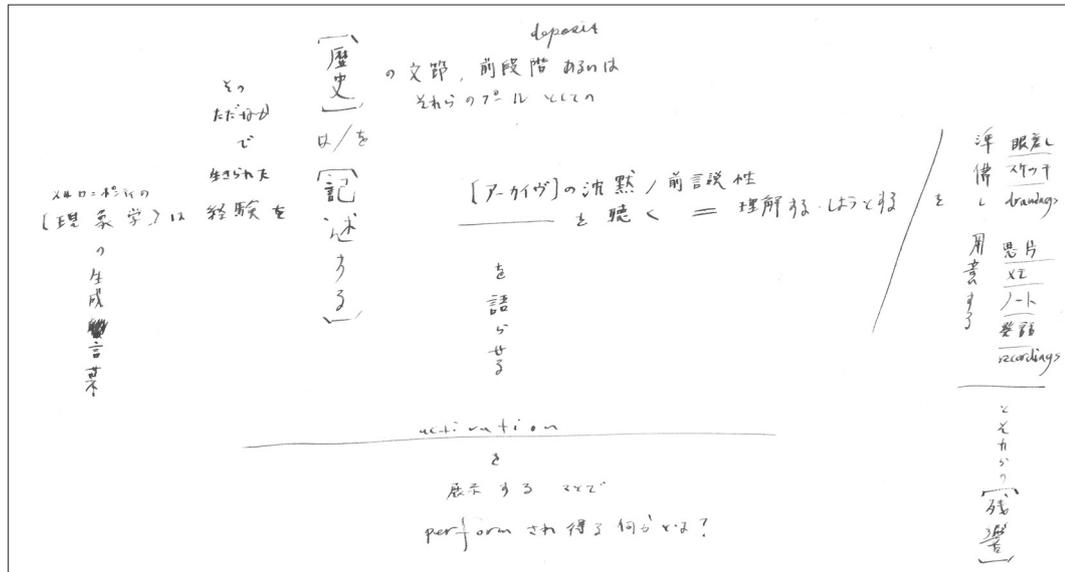
最初にスタートする活用展「第十門第四類」では、学校の創立当初（明治期）に教材として活用された絵本が辿ってきた歴史に注目します。これらの絵本は、教育方針の変化から、明治後半を境に徐々に実用されなくなり、その後、昭和末期に資料の再整理が行われるまであまり顧みられることがありませんでした。展覧会名となった「第十門第四類」とは、明治期から続く図書台帳でこれらの資料に当てられた管理番号、いわばラベルの名前を指します。

続いて実施される、mamoru「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」は、展覧会場と特設ウェブサイトの2箇所資料に誘発される「思索」の視覚化を試みます。展覧会場では芸術資料館収蔵品活用展「第十門第四類」を引き継ぐ形で、京都芸大の資料とmamoruの制作資料や映像作品を会場に混じり合わせ、特設ウェブサイトはハイパーリンクテキストを主体にWEBのフォーマットならではの手法で連鎖的な展開が繰り広げられます。

これはパンデミック以降に起こった展覧会やアーティストのリサーチのあり方の変化に端を発する、実際の展示室およびオンラインにおける展覧会の「オルタナティブ」の形の探究であり、互いに作用したり、離れたたりしながらもそのビジュアルを常に変化させながら、新たな問いを生み出していきます。

ARTIST

mamoru 1977年大阪生まれ。2001年ニューヨーク市立大学音楽学部卒業、2016年ハグ王立芸術アカデミー/王立音楽院・大学院マスター・アーティストック・リサーチ修了。平成27年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修員。主な展示に「第10回恵比寿映像祭「インヴィジブル」(東京都写真美術館、東京、2018)、「他人の時間」(東京都現代美術館、東京、2015 / Queensland Art Gallery、ブリスベン、2016)、「MEDIA ART/KITCHEN、SENSORIUM」(アヤラ美術館、マニラ、2013)、「虹の彼方 こことどこかをつなぐ、アーティストたちの遊飛行」(府中市美術館、東京、2012)、「再考現学 / Re-Modernologio」(青森国際芸術センター、青森、2011)など。



mamoru (思索の地図)

「第十門第四類」出品作品・資料

池田雲樵、幸野楳嶺、巨勢小石、鈴木松年、望月玉泉らによる画学校絵手本、竹内栖鳳、谷口香嶠、山元春挙による京都市立美術工芸学校絵手本
校歴資料ほか



画学校書篋(粉本用) 明治13年頃



山元春挙《松草》
京都市立美術工芸学校絵手本
制作年：明治36年
和紙、墨、顔料



上：望月玉泉《月夜山水図》京都府画学校絵手本（東京）
制作年：明治時代
和紙、墨、顔料

下：鈴木松年《牛図》京都府画学校絵手本（北京）
制作年：明治時代（1881-88）
和紙、墨、顔料



竹内栖鳳絵手本集(馬・鶴・岩・臥牛)より
京都市立美術工芸学校絵手本
制作年：明治37年
和紙、墨、顔料

■ 関連情報

「第十門第四類」会期中、2階の展示室(@KCUA 2)では、mamoru「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」phase 0として、mamoruによる自作・改造楽器、ループペダルなどを用いた即興演奏の記録映像を上映します。

「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」開幕後に2階に展示される映像資料、作品アーカイブは各 phase ごとに変わります。

■ 開催概要

京都市立芸術大学芸術大学芸術資料館収蔵品活用展「第十門第四類」
(mamoru「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」phase 0)
2021年12月11日(土) - 2021年12月26日(日)

mamoru「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」
2022年1月4日(火) - 3月21日(月・祝)

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
開館時間：11:00-19:00
休館日：月曜日(1/10(月・祝)、3/21(月・祝))は開館、翌平日を休館
料金：入場無料
特設ウェブサイト：2021年12月11日(土)～
<https://gallery.kcuu.ac.jp/mamoru>

企画：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
主催：京都市立芸術大学
助成：公益財団法人野村財団
(mamoru「おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ?）」)

お問い合わせ：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
Tel: 075-253-1509 E-mail: galleries@kcuu.ac.jp
公式サイト：<http://gallery.kcuu.ac.jp>



■ プレス向け画像貸出について

本プレスリリースに掲載している作品画像はメディア掲載時にご利用いただけます。
ご希望の方はお問い合わせください。